

いしかわ 921 在宅ネットワーク

自然災害における地震・大雪対策の実践的 BCP 策定講座

グループワークまとめ

2022.3.9

ブレイクアウトセッション

○推進体制についてどのような体制をとっていますか？

- ・感染対策や緊急時の連絡網程度が存在。
- ・担当する委員会が存在。職場として今日の研修会参加をしている。今後は中心的に係るかも。
- ・法人内の他事業との連携が必要であり、取り組みが遅れている。
- ・安否確認は LINEWORKS を使う予定。時々、訓練して安否確認をする訓練をする。
- ・大雪、大雨についてはメンバーの役割分担をしている。
- ・情報収集はみんなで協力体制は話し合っている。
- ・リスク委員会がある。
- ・災害の BCP の役割分担は複数いる体制
- ・ケアマネとの連携について 電話がうまくつながるのか不安
- ・備蓄について 平屋のため水害で水没したらどうしようかと悩む
- ・備蓄倉庫ある
- ・発電機はまだ準備できていない

○地震災害時の緊急時の対応についてどのような準備をしていますか？

【人的】

- ・職場で職員の災害時参集について聴取あり。自宅までの距離や家庭環境など。

【環境】

- ・連絡網があるくらい。一人ずつ社員携帯が配布されており電話、チャット併用
- ・職場で LINE ワークスを利用している
- ・ドラッグストアの売り物は緊急時備蓄となり得るのか・・・

①法人内の事業所や施設との協力体制を構築している。

- ・職員の応援体制など、今までの人事で実労働の有無の確認で配置を考えるなど

②自事業の利用者の中でも優先順位をつけて、訪問行う。

- ・一覧表にして貼ってある。
- ・訪問看護の場合、担当以外の職員が訪問してもできるようにカルテに書類作成し準備

③福祉避難所と聞くと聞くと、わからないので、勉強して、利用者と家族に伝える

④ケアプランの1表に、避難所や福祉避難所を明記してあるのを見たことがある。

- ・本人、家族、支援チームも共有できる

⑤備蓄の量については判断が難しい。

- ・感染対策のものはできている
- ・法人の施設が3日間の飲食の備蓄はしているが、賞味期限等の管理が大変

- ・棚が倒れないように転倒予防をしている。
- ・利用者さんに危険が及ばないような対策。
- ・まだ対策とれていないのでやっていきたい。
- ・障害物を置かないようにしている。
- ・リスク委員会は定期的な会議をしている。
- ・避難所の把握、安否確認の方法を地域でどうしていくか
- ・デイサービスの広い範囲の利用者さんの安否確認は関わる事業所との連携の想像ができない
- ・事業所間のLINEグループも必要か

○豪雪災害における緊急時の対応について

○他事業所の連携を図った方が良い利用者はいますか？

連携する内容はどのようなものか？

【連携を図った方が良い利用者】

- ・医療依存度が高い人
- ・家族の介護力の低い方
- ・在宅にいる方が対象になりやすいのではないか。
- ・医療ニーズの高い人
- ・複数サービスを利用している人
- ・高齢者世帯や日中独居、認知症の方
- ・ケアマネジャー
- ・デイサービスの大雪などの送迎について四輪駆動を活用するが遠方の方については休みになるため関わる他サービス事業所
- ・重症度の高い方には2か所の訪看
- ・デイサービスに行けなくなった場合は、デイと訪看の連携
- ・個人情報の共有については課題
- ・福祉避難所への協力をするためには事前の取り決め、行政とも連携必要

(入所施設は自施設で完結する可能性がある)。

【連携内容】

- ・医療施設に受入れてもらえるか？医療施設も被災している可能性もあるため、予備候補との連携（これは医療施設側のBCPを理解することも必要なのかも）
- ・複数の事業者がある場合、優先順位を明確にしておく必要があるのでは。だれが主導していくのか？
- ・離設事故が4回あった経験から、利用者全員の情報を1冊にファイリング
- ・訪問看護も救急車要請もあり、情報をまとめたもの準備してある
- ・サービス事業所だけでなく、地域も巻き込みたい「要援護者登録」にも同意されない方もいて、なかなか難しい面がある。
- ・必要な情報のシートを作成して、地域全体で活用するといい
- ・白山市のように冷蔵庫に「緊急時シート」があるように誰が対応してもわかる仕組みがあるといい。
- ・高齢者だけでなく、市民が意識をもつ仕組みがあって、連携につながると自然